

本企画のねらい 「東京の中心から復興の狼煙を上げる」

1. 災禍を被った人々や地域に支援の輪を広げる
2. 日比谷公園会場の集客拡大
3. 東京と被災地との交流の強化

平成23年3月11日、東日本大震災で発生した大津波により、日本有数のサンマ水揚げを誇る宮城県牡鹿郡女川町も壊滅的な被害を被った。震災復興のため、女川町へも全国から多大な支援が寄せられているが、中でも東京都が全国に先駆けて6万トンの災害廃棄物(瓦礫)の受入れを表明したことへの現地の感謝の声は大きい。

このたび、公益事業(緑化)で以前からご縁のあった「女川町支援ネットワーク」を通じ、支援に対する女川町民からのお礼として、女川町観光協会、魚市場の全面協力のもと、サンマ6万匹の都民への提供が提案された。

女川町支援ネットワークから支援協力を求められた東京地区ライオンズクラブ議長は、緊急対策委員会を中心とした全委員会の協力を約束し、おながわ秋刀魚収穫祭IN日比谷公園は大きく前進する事になった。

緑化フェアTOKYOは震災復興を基本方針の一つとしている。都心に位置する日比谷公園会場を拠点に、被災地からのメッセージを発信することが、さらなる復興への一助、そして東京都と被災地とを強く結びつけるきっかけにつながることを期待し、この催事を企画した。

企画概要

日時:平成24年10月20日(土) 10~16時頃予定

場所:日比谷公園 噴水広場ほか

主催:女川魚市場買受人共同組合 理事長 高橋 孝信
実行委員会:おながわ秋刀魚収穫祭実行委員会 委員長 鈴木 静雄
(女川復興支援ネットワーク会長)

共催:公益法人東京都公園協会
協賛:ライオンズクラブ国際協会330-A地区(東京都)ガバナー阿久津 隆文
緊急アラート委員会 献血・骨髄移植委員会
オリンピック・パラリンピック招致委員会 青年アカデミー委員会
女川に元気を送る会 目黒区民まつり・さんま実行委員会
港区特定非営利活動法人「風の子会」 われら青春!女川復興支援隊
城北地区倫理法人会 NPO法人「緑のカーテン応援団」
公益社団法人東京青年会議所 女川復興支援ネットワーク

後援:荒川区 板橋区
実施内容:1万本の焼きサンマ、1万食の女川汁を来園者へ無償提供
生サンマの無償配布、および復興目的のチャリティを実施
催事ステージで潮騒太鼓、獅子舞の演舞 など

展開イメージ 「東京への感謝を込めてさんま祭り」

【準備段階】

- ・サンマ祭りの経験があるメンバー主導で運営体制を構築、実施する
- ・事前PRではフェアの広報のほか、各方面のHP、SNS等を活用
- ・被災地ボランティアのネットワークを介して告知
- ・目黒、板橋など、実績のあるさんま祭り実行委員会にも協力を要請
- ・公園協会より各メディアへプレスリリース
- ・松本楼ほかへの挨拶・企画説明まわり
- ・丸の内警察・消防への挨拶、揚煙許可ほか

【開催当日】

- ・女川港で水揚げされたサンマを10tトラックで日比谷へ直送
- ・配布用のサンマは発泡スチロールの箱に氷詰めしてから配送
- ・トラックは日比谷門から入園
- ・9時ごろより整理員配置
- ・噴水の周り約50mにU字溝を配置。炭でサンマを焼く
- ・10時ごろから焼きサンマ配布開始
- ・20分で1mあたり15本焼けるため、4時間で1万匹強の計算
- ・女川汁は事前に調理しておき、公園で温めて提供
- ・生さんまの配布は、女川ネットブース横で行う予定。
- ・仮設ゴミ箱を設置
- ・獅子舞、太鼓の演舞。ご当地キャラクターの登場ほか
- ・チャリティを募る(被災地支援目的)

【撤収】

- ・清掃、片づけ
- ・ゴミの回収、仮設ゴミ箱の撤収



人員配置 (案)

【総人員】約430名
(女川町約100名、ライオンズクラブ約230名、
協会約100名、委託:約10名)

【想定配置】

- サンマ焼き手 150名(75名×2交代)
- 女川汁配布 30名
- 生サンマ配布 30名
- 整理員・環境美化 100名
- 本部・進行管理 40名
- 運搬等作業 40名
- 演舞 40名

サンマの提供計画

【総数】60,000匹
(内1万匹は板橋区で配布)

【提供方法】

- ◆焼きサンマ 10,000匹 <無料配布>
 - ・焼き場約50m
 - ・1mあたり約15本焼ける
 - ・サンマは約20分で焼ける(45本/m時)
 - ⇒約6時間で10,000匹
- ◆女川汁 10,000食 <無料配布>
 - ・事前調理しておき、会場で温める
- ◆生サンマ配布 30,000匹<無料配布>
 - ・発泡スチロール箱に氷漬け
 - ・10本×3,000セットを用意予定